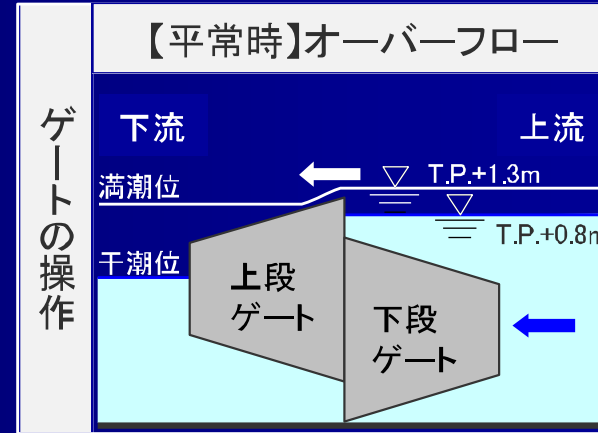


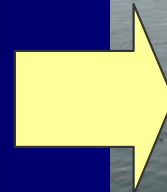
ゲート操作（平常時の操作）



調節ゲート

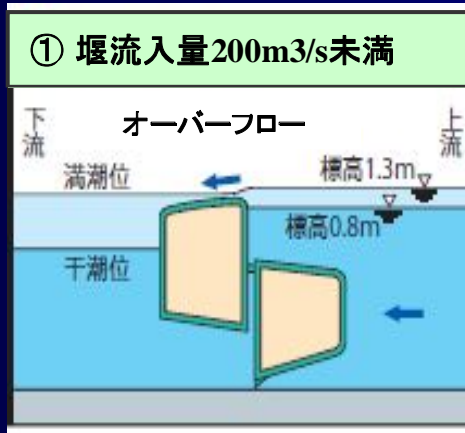


魚類の遡上に配慮して堰の
上下流の水位差を少なくした操作

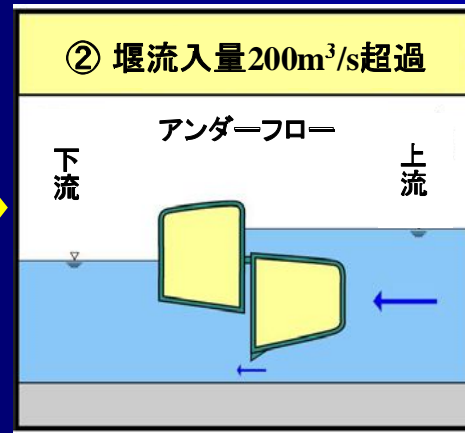


ゲート操作(洪水時の操作)

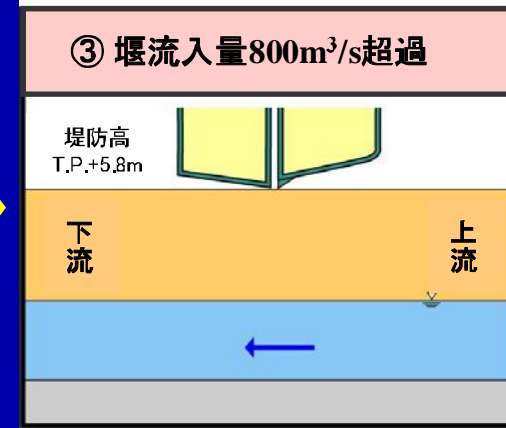
(平常時)



(洪水移行時)



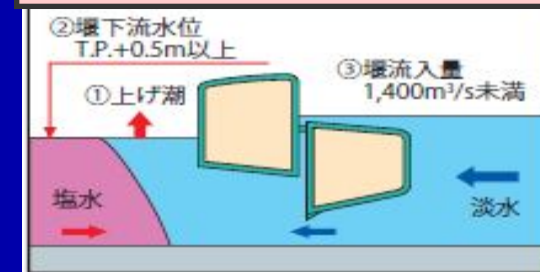
(洪水時)



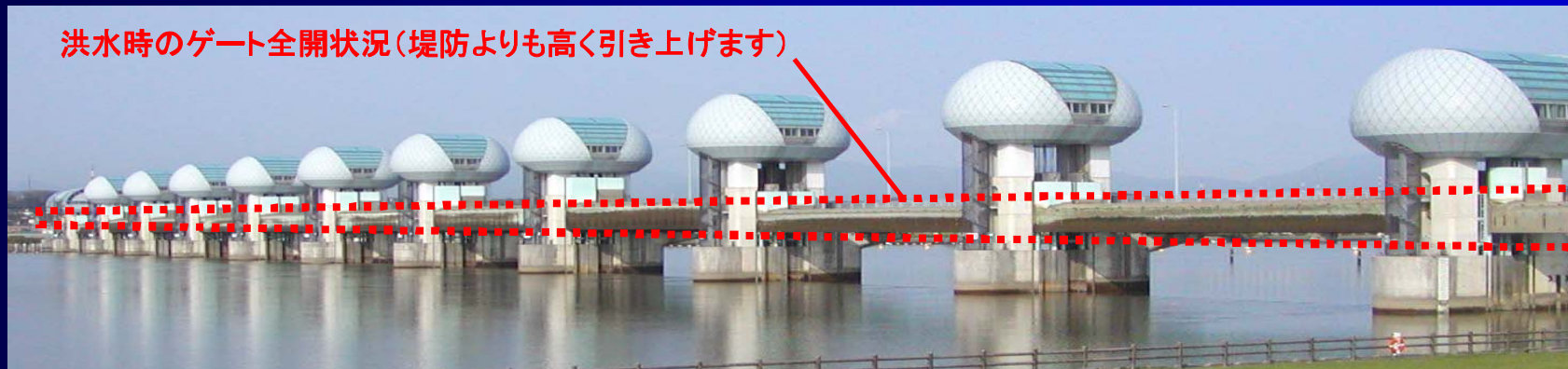
※全ゲートを堤防と同じ高さにする全開操作

※塩水が堰より上流に侵入するおそれがある場合(①~③の条件が全て重なるとき。)には、ゲートを全開とせず、塩水の侵入を防止する操作を継続することができる。
ただし、長良油島観測所の水位がT.P.1.92m以下の時に限る。

(塩水の浸入を防止する操作)



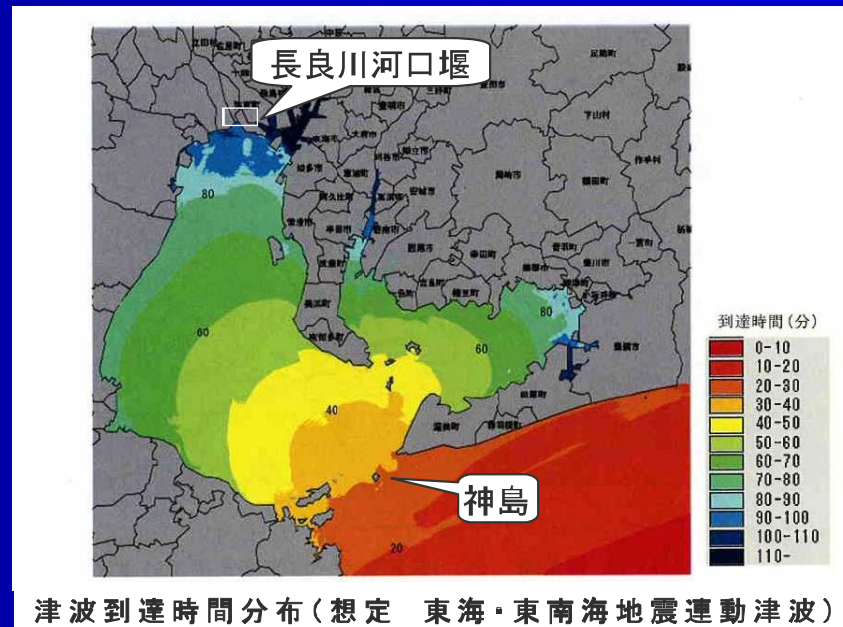
洪水時のゲート全開状況(堤防よりも高く引き上げます)



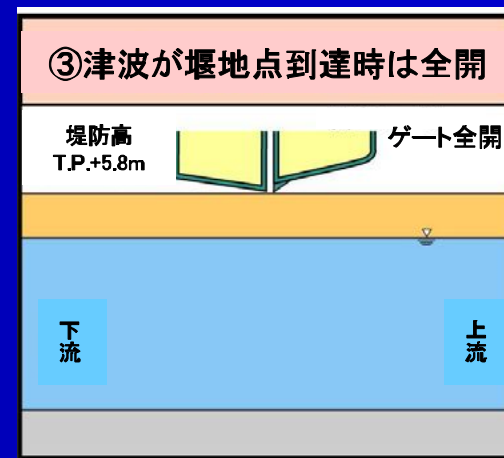
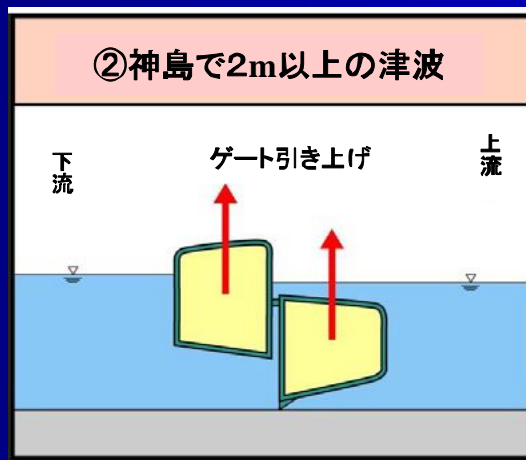
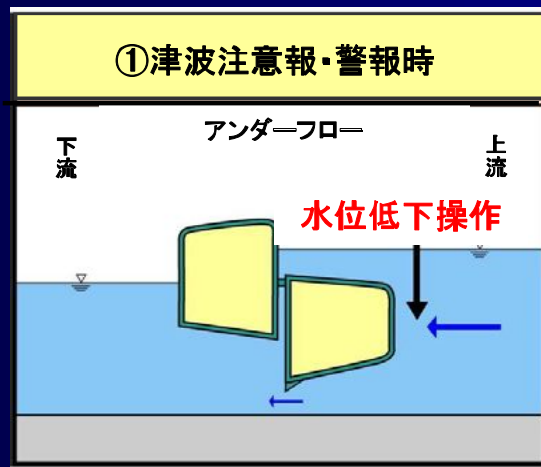
平成7年の管理開始以降116回の全開操作を実施(H24.8.31現在)

ゲート操作(津波時の操作)

- ①伊勢・三河湾に津波注意報、津波警報が発令されたら、全開時に堰上下流で急激な水位変化を生じさせない(堰上下流の水位差15cm以内)ように堰上流水位を低下させる。
- ②伊勢湾の神島観測所で2m以上の津波が観測されたときはゲートを全開する。



出典:愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査報告書(平成15年3月)

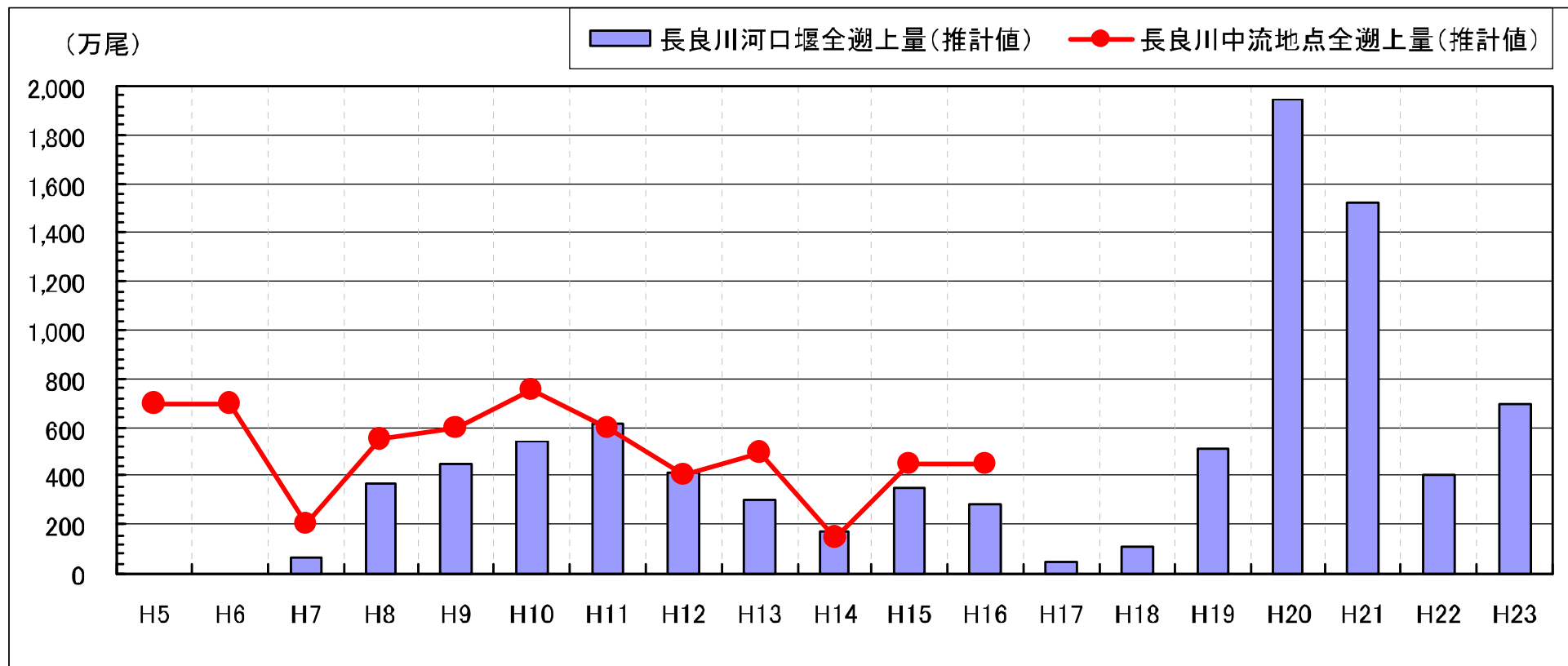


資料28:河口堰地点におけるアユの遡上数の経年変化

※長良川河口堰に関する基本的な考え方
【説明資料】より抜粋

[フォローアップ委員会における審議結果(平成22年8月)]

○堰供用後のアユの遡上数は年によって変動し、一定の変化傾向は見られない。河口堰の魚道は十分に機能を果たしており、稚アユの遡上に対する河口堰の影響は認められない。



※平成7年5月21日以降はゲート全開操作のため調査不可能

※中流地点における調査はH5～H9、H11、H12、H15、H16は忠節、H10、H13、H14は大縄場大橋で実施。
H17以降は実施していない。

出典:長良川河口堰検証第2回専門委員会 資料2(水資源機構提出)